

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和6年2月26日

公表: 令和6年3月28日

事業所名 放課後等デイサービス にじいろLABO

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	3	曜日によってカリキュラムが異なるため、パーテーションや机の配置を変えて対応している。	木工スペースの部屋が手狭であるが、家具の配置等を工夫して、安全に活動ができるよう配慮していく。
	2	職員の配置数は適切である	8	0	加配による配置をしている。	木工活動時に複数の担当者が必要なため、他の利用者への支援が薄くなっている。送迎等を見直し、支援が均等になるようにしていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	4	補助が必要な場合は手をつないだり、後ろから支えたりの対応をしている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	1	朝礼時に全職員で改善案を出し合っている。	朝礼時に全職員で改善案を出し合っている。朝礼に参加できない職員にはノートへの記録や回覧等を行い、情報の共有を図っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	0	毎年、アンケートを実施し、業務の改善に努めている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	0	毎年、ホームページに掲載している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	3		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	0	毎月、各種研修を実施している。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	0	ISSP、SM能力チェック等のツールを用いてサービスを提供している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	1	ISSP、SM能力チェック等のツールを用いてサービスを提供している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	0	朝礼時にチームで内容を決めている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	0	カリキュラムについて振り返りを行い、チームで話し合っている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8	0	長期休業中には月間スケジュールを詳細に設定している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	8	0	成長過程によって個別にカリキュラムを設定している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	0	朝礼の際に、支援内容について話し合い、支援の質の向上に努めている。	
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	1	翌日には必ず前日の振り返りを行っている。		

	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	サービス提供記録の記載及び配信は、支援当日に実施している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8	0	更新の時期に合わせ、又は個別に必要な方にはその都度モニタリングを実施して、支援を見直ししている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	8	0	面談を行い、利用者に必要な基本活動を組み合わせ合わせて支援を実施している。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	0	児童発達支援管理責任者及び心理職員が参画している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7	1	基本的に学校の情報は保護者の方とやり取りをしているが、調整が必要な場合には、必要に応じて学校と連絡を取っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	3	提携している医療機関はあるが、医療的ケアが必要な利用者の受け入れは経験がない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8	0	引継ぎ書を作成して、必要な連絡を行っている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	4	放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行の経験がないが、必要な場合は書類を作成し、情報共有を行う準備はしている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	3	専門員の方からの研修を受けている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	4	長期休業中は、児童館等の利用をしたり、パントリーを開催して地域との交流の場を作っている。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	4	協議会への参加はできていない状況である。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	0	サービス提供記録の配信及び送迎時に、活動の様子や成長の足跡を伝えている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	3	保護者に対して心理職員が面談を行い、支援の助言等を行っている。	
保護者への	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	0	契約時に懇切丁寧な説明を心がけている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	0	相談があった際には、その都度助言を行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	1	半年に1度保護者会を開催している。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	苦情があった際には可及的速やかな対応をしている。	

説明責任等	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	1	公式LINEにて日ごろの支援及び事業所における行事等について配信している。	
	35	個人情報に十分注意している	8	0	個人情報は施錠できるロッカーにて保管、外部に配信するものに関しては加工を行い、細心の注意を払っている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0	イラスト、文字等のツールを使用して対応している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	8	0	フードパントリー事業を通じて、地域との交流を行っている。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8	0	公式LINEやHUGのお知らせにて重要事項は配信している。	内容を見直し、より分かりやすいマニュアルへと改善していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	0	年度2回の法定消防訓練を実施している。イベントでも防災にちなんだ内容を取り入れている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	0	毎年虐待防止の研修及び月に1度「虐待防止ならびに身体拘束適正化検討委員会」を開催している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8	0	身体拘束が必要な児童等が在籍する場合においては、職員間で話し合い、保護者の方に説明して対応している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	0	保護者の方と連絡を取り、食物アレルギーについて対応している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	0	問題があった際には、即座にヒヤリハットを作成して、共有している。	